



林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成 28 年 8 月 26 日
No.122

力をひとつに -白神を愛する仲間たち-

白神山地やそれを取りまく地域では、豊かな森を後世に引き継ごうと、日々奮闘されている団体・機関が多くあります。当センターでは、そのような皆さんとの連携や協働によって、白神山地の保全や適正な利用を図っています。

このコーナーでは、関係する団体・機関の白神山地での取組などを皆さんに紹介していきます。

3 日本山岳会 青森支部

「白神山地の恵みに感謝して…ブナ林再生事業&自然観察会…」

会報委員長 須々田秀美



公益社団法人日本山岳会は、1905年（明治38年）にわが国初の山岳クラブとして設立され、山岳に関する研究並びに知識の普及及び健全な登山指導、奨励をなし、あわせて会員相互の連絡懇親をはかるとともに、登山を通じてあまねく体育、文化及び自然愛護の精神の高揚をはかることを目的として活動しています。2012年4月、社団法人から公益社団法人となりました。青森支部は1993

年11月20日に第23番目の支部として設立されております。（初代支部長 松島静吾）

白神山地ブナ林再生事業は、日本山岳会100周年（2005年）の記念事業のひとつとして位置付けられ、（社）国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」の助成を受けて、1999

年9月から始まりました。赤石川を守る会、白神市民文化フォーラム、日本山岳会自然保護委員会/山の自然学研究会に協賛していただきました。

事業の目的は、

1. 自然の再生力を活用し、不成績杉造林地を、ブナを主とする落葉広葉樹林に再生させる。
2. 森作りを通して、自然愛護思想の啓蒙・普及に努める。
3. 自然再生のボランティア活動を通して、自然を愛する青少年の育成に努める。

であり、ブナの植樹を森再生の主な手段とせず、経済栽培が無理な場所に植えられた生育不良の杉を減らし、自生する高木広葉樹の生育を促し、ブナの自生苗が全くないか非常に少ない場所にだけブナの原生苗を移植し、多様な樹種で構成される森に仕立て、時間と自然の遷移で、遠い将来ブナの森が出来るように進めるものです。



ブナ林再生事業に取り組んでいます

1998年9月に、松島支部長・大森弘一郎氏がブナ林再生事業について森林管理局青森分局と交渉し、10月に青森分局と一緒に、自神山地の青森県側、奥赤石林道の最奥部、ゲートから約8km(徒歩3時間)入った櫛石山周辺の国有林を現地視察しました。

1999年6月26～27日 中村勉(支部事務局長)・須々田秀美(支部会員)・吉川隆(赤石川を守る会)・高橋仁志(白神市民文化フォーラム)が、世界遺産の指定地域に隣接した杉植林地である「へ19林小班」を現地調査し、作業地域と野

営地・水場等の確認をしました。

そして9月23～25日、地元会員13名、東京から3名(大森・大船・山川)報道関係者や支援団体を含め、20数名が参加して第1回の作業が行われました。スギの除伐作業をするにあたって鯨ヶ沢事務所員から用具等の使い方を指導していただきましたが、台風接近のため24日昼で作業を中止せざるを得ませんでした。

2000年6月9～12日、第2回作業には、東京からの3名(大森・大船・山川)を含む28名が参加しました。クマガラが野営地の近くまで飛来してきました。

9月8～11日には参加者20名が参加して第3回作業が行われました。以降、年2回(6月、9月)作業する事が慣例となり、不要木の除伐を主作業としました。杉の除伐には、根元から切断するだけでなく、環状剥皮処理も導入され、自然に倒木となっていく方法も試みられました。

2001年6月、第4回参加者68名、9月、第5回参加者62名

2002年6月、第6回参加者50名、9月、第7回参加者65名

杉植林前(1980年以前)はブナの原生林だった所なので、樹木やブドウ蔓などが密生していたので、位置確認にヘリウムガスを封入した風船を上げて現在地を確認するな

ど、いろいろな手段を駆使し、また試行錯誤を繰り返しながら作業が進められました。こうした活動に対し、2002年6月14日、東北森林管理局長より「森からの感謝状」を授与される、という栄誉も受けました。

2003年6月、第8回参加者73名。9月第9回、参加者44名。

2004年6月、第10回参加者52名。9月第11回、参加者44名。

「白神山地ブナ林再生事業」は、日本山岳会創立100周年記念事業として位置付けられているので、2004年6月24～25日の第12回は、全国から会員約75名が参加、30本のブナの苗を植樹しました。以後、不要木の除伐だけでなく、ブナの木が成長していない場所では植樹も行いました。植樹は現地の幼苗を移植したほか、実生を育てて現地に移植する方法も採られ、カネミツコンにより活着率が向上しましたが、野ウサギの食害に遭う事も多く、スギマルチと称する植樹木に杉の葉で覆いをする方法も採用され、好結果を得ました。

2004年6月、第12回参加者52名。9月第13回、参加者24名。

2006年6月、第14回参加者43名。9月第15回、参加者25名。

2007年6月、第16回参加者35名。9月第17回、参加者22名。

2008年6月、第18回参加者31名。9月第19回、参加者19名。

2009年6月、第20回参加者17名。9月第21回、参加者29名。

2010年6月、第22回参加者14名。

2011年6月、第23回参加者12名。

2012年6月、第24回参加者12名。9月第25回、参加者5名。

2013年6月、第26回参加者7名。

2014年6月、第27回参加者13名。10月第28回、参加者13名。

2015年6月、林道通行止めのため中止、9月第29回参加者13名。

2016年6月、第30回参加者18名、林道通行不可および雨天のため作業断念。

これまで、作業に関わった人員は述べ900人以上に達し、環境教育プログラムにより、中学生・高校生も杉の除伐・下草刈り・作業道の建設等に関わりました。また、卒業してからも再参加するなど、大きな成果を挙げています。一時期、年1回になった時もありますが、現在は6月と9月の2回、苗の周りの下草刈りや成長度の把握、また、毎年のように雪の重さで破損する橋の補修等を継続しています。

これらの作業の様子などは以下の日本山岳会青森支部のホームページで見ることができます。

<http://www.jac.or.jp/info/shibudayori/aomori/aomori.htm>



「山の日」制定記念イベント開催



記念すべき1回目の「山の日」です



「大きくなれ！」と願いを込めて植樹

だき、村役場から白神山地を抱える西目屋村の魅力について熱心な説明を受けていました。

8月11日「山の日」を契機として、皆さんも白神山地はじめ森の恵みを感じに出かけてみませんか。（吉川）

国民の祝日となる8月11日（木）、
「山の日制定記念白神のぶな林を学ぼう」を記念イベントとして開催しました。

このイベントは津軽森林管理署、津軽白神森林生態系保全センターが主催、西目屋村、白神ビジターセンター（指定管理者：青森県森林組合連合会）の共催で実施したもので、白神山地が一望できる津軽峠周辺においてブナ等の植樹体験やぶな巨木林での散策を行いました。

当日は天候に恵まれ、一般公募で参加した親子含む25名の方々は、一生懸命にクワで植穴を掘りブナ等広葉樹を丁寧に植えていました。特に子供たちは額に大粒の汗をかいていましたが、さわやかな白神のぶな林の中で、貴重なふれあい体験になったものと思います。

昼食時は世界自然遺産白神山地を間近に見ながら、参加者は地元マタギ飯をモチーフにした「山助弁当」をいた



平成28年度「森林と人との協議会」を開催しました



活動拠点の様子を現地で確認しました

は白神山地世界自然遺産地域周辺のスギ人工林を、元々の植生である広葉樹林に戻していこうという「自然再生活動」の取組手法に関し検討したものです。委員からは、伐採後、自然再生活動としてボランティア等による林地残材の処理は人力作業で難しい、作業上の安全確保が重要などの意見があったところです。



各機関・団体の意見交換を行いました。

線などアクセス道路の不通により思うように活動ができないとの報告が多くありました。議事その他では、昨年報告あったマツクイムシ被害状況に関し追加報告が青森県ならびに津軽森林管理署からあり、民有林で今年度新たに確認されたものの被害範囲としては限定的との見解が県から示され、確実な処理により被害の減少を目指すとの説明がありました。

当センターにおいては当協議会の意見を踏まえ、より多くの人の参加を得ながら自然再生活動を行っていきたいと考えています。（吉川）

7月28日（木）西目屋村の白神山地ビジターセンター及び鬼川辺国有林にて「第11回白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」を開催しました。当日は学識経験者はじめ行政担当者やボランティア団体代表者などの委員に出席いただき、午前中は雨模様の中、自然再生活動拠点における伐採後の広葉樹侵入等について現地検討会を実施しました。これ

午後の協議会では、東北森林管理局松葉瀬部長から冒頭挨拶があり、続いて、田村委員（青森県林業会議参与）が座長に選出され議事に入りました。議事では、現地検討会で発言しきれなかった意見や経験を補足した意見交換となりました。続いて、当センターや各団体から、平成27年度事業結果と平成28年度事業予定について報告があり、各団体とも赤石溪流

遺産地域をパトロール



大川での巡視の様子

7月30日(土)、今年度第1回目の合同パトロールを実施しました。巡視活動を①大川、②クマゲラの森、③追良瀬川で、マナー啓発のチラシ配布を①ブナ林散策道、②白神岳登山口で行いました。各コースとも違法行為やマナー違反などは無く無事に巡視活動、チラシ配布を終えました。

大川コースには、白神山地世界遺産地域巡視員のほか、岩木川漁協などからも参加があり13名で違法行為やマナー

違反が無いか沢沿いのコースを巡視しました。

参加者は、所々腰まで水につかりながら、足下を確認しながらゆっくりとしたペースで慎重に巡視活動を行いました。

今後も、巡視活動や入山マナー向上の呼びかけを行い、違法行為等の減少に努めていきます。(森川)

「紅葉狩り」の行き先はお決まりですか??

当センターでは、10月15日に「秋の森林教室」を開催いたします。

目的地は津軽峠と釣瓶落峠。雄大な自然の彩りを見てみませんか??

募集受付は9月15日からです。

詳しくは次号「白神の絆」に同封するチラシ、またはセンターHPをご覧ください。

※9月17日開催の「自然再生活動」もまだまだ募集を受け付けています。

そちらもぜひご参加ください。

